

ツナガルカンケイ

 NPOインターンシップ
ツナがるカンケイ

2021 活動報告書



❖ P1-2 プログラム内容

❖ P3-4 受け入れ団体一覧

❖ P5-6 インターン生の活動風景

❖ P7-8 インターン生座談会

❖ P9 受け入れNPO・大学からの声

❖ P10 インターン生のアンケートより

NPOインターンシップとは？

横浜市を中心としたNPOの活動を体験出来るインターンシッププログラムです。活動先は「福祉」「国際協力」など、多様なNPOから選ぶことができます。NPOの想いと本気で向き合うインターンシップです！

具体的な流れ



Step
1

NPOと学生のお見合い会 @ハイブリッド

参加学生と受け入れ団体が直接話すことができる機会です。様々な団体を見て、活動したい団体を選びます。

Step
2

事前研修会

実際に活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。参加学生同士の交流も深まります。



Step
3

志望先の調整&面接

志望団体が決まったら面接にてマッチング！活動期間や内容について具体的に打ち合わせます。



Step
4

活動体験

各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流も開催。



Step
6

修了式・成果報告会

活動してきた事を振り返り、活動内容を共有します。最後に修了書を受け取り、プログラムは終了です。

Step
5

定例会（※長期生のみ）

月に一度インターン活動でのお互いの悩み相談や目標確認を学生同士で共有する機会。異なる大学の学生との仲も深まります。



2021年度の報告

長期実践型

期間:3-6か月間(200~400時間)
時期:8-2月

短期体験型

期間:10日間(80時間)
時期:8-9月

参加者数
計89名

コロナ禍ではありましたが沢山の方のご協力の元、
オンラインと対面を駆使し活動を継続することが出来ました!



NPOインターンシップ寄付・協賛のご報告

このNPOインターンシッププログラムは皆様のご賛同・ご支援により成り立っています。
皆様、誠にありがとうございました。

2021年度

寄付総額:¥243,000

ご支援いただいた方:

- ・1団体
- ・個人18名様

※こちらは今年度の運営に
活用させていただきました。
誠にありがとうございました!

2022年度

寄付総額:¥239,953

ご支援いただいた方:

- ・2団体
- ・個人19名様

※こちらは来年度の運営に
活用させていただきます。
誠にありがとうございます!

2021年度 NPOインターンシップ受け入れ団体一覧



大倉山おへそ
商店会と連携したまちづくり



NPO法人教育支援協会南関東
子どもの体験学習支援



障害者自立生活センター
IL・NEXT
障害者自立支援



NPO法人みどり福祉ホーム
障害福祉、子ども支援



NPO法人地域生活センター
障害者福祉



NPO法人
ピッピー・親子サポートネット
子育て支援、学齢期の居場所



公益財団法人日本野鳥の会
「横浜自然観察の森」
環境保全(教育・調査・管理)



NPO法人アクト川崎
環境学習、地球温暖化防止、
市民活動支援



認定NPO法人
スマイルオブキッズ
病気や障害のある子どもと家族の支援



NPO法人ぐらす・かわさき
地域活動支援センター
「メサ・グランデ」
コミュニティカフェ・市民活動支援



K2インターナショナル
グループ
まちづくり・若者支援



認定NPO法人
びーのびーの
子育て支援



NPO法人さくらザウルス
子育て支援



NPO法人グリーンママ
子育て支援



NPO法人かながわ外国人すま
いサポートセンター
外国人支援(すまい探し・生活相談など)



NPO法人WE2 | ジャパン
リサイクル、国際協力



コトラボ合同会社
「ヨコハマホステルヴィレッジ」
コミュニティ再生、起業



国際協力NGO
Act for Child
国際協力



NPO法人横浜NGOネットワーク
国際協力



NPO法人アクションポート横浜
中間支援、まちづくり



NPO法人横浜市民アクト
(ほどがや市民活動センター
アワーズ)
市民活動支援、まちづくり



NPO法人
横浜ジェントルタウン倶楽部
まちづくり、障害者福祉



認定NPO法人アークシップ
音楽、まちづくり、多様化の推進

2021年度 インターン生の活動風景

長期実践型インターン生の活動

コロナ禍ということもあり、オンラインでの活動がほとんどでした。顔合わせや、数回事務所に行き、名刺の作成やこれからお世話になる方々に挨拶に行きました。



横浜NGOネットワーク主催のイベントである、「SDGsよこはまCITY冬」の運営を行いました。オンラインでしたが、参加団体が多く、大きなイベントでした。多様な考えを持つ人と関わることができ、自分の考えが広がりました。



「SDGsよこはまCITY冬」の運営を行いました。秋に続くイベントで、参加団体が増え、新しいインターン生と行いました。仕事内容を少し教えることもでき、今までの活動から成長できていることを感じられました。

8月

10月

11月

12月

2月



SDGs勉強会と題したインターン生イベント企画の第1弾を行いました。なれないことが多かったですが、協力して成し遂げた後は達成感を得られました。



12月はSDGs勉強会第2弾である記事作成を行いました。それぞれが興味のあるSDGs項目について勉強し読者が分かりやすい様に工夫して作成しました。1月には第3弾イベントを運営しました。多文化について楽しく学ぶことができました。

短期体験型インターン生の活動



イベント「ホッチポッチ」にて「ふくまちビンゴラリー」という、会場内のバリアフリーなどの「優しいところ」を見つける企画出店を行いました。子どもや海外の人など様々な方にご参加いただきました。



「触る地図で体験まち歩き」の実施。障害者福祉やまちづくりに関心のある様々なプレイヤーの方が参加して、グループに分かれて白杖体験、車いす体験、健常者として誘導を体験しました。最後に参加者、主催者全員でディスカッションも行い、課題や意見交換をしました。

1日目

2日目

3日目



障害を持った方が商店街をまわるイベント「ぬくもりビンゴラリー」の実施。障害を持っている方がまちに出ることで相互に関わり方を学ぶきっかけになりました。戻ってきてからみんなで対応が良かったお店やお気に入りのお店を発表し合いました。

3日目の流れ

- 13:30 準備
- 14:00 オリエンテーション
- 14:05 触ってみよう、触る地図
- 14:10 コース説明、介助、誘導のレクチャー
- 14:35 まち歩き
- 15:20 フリーディスカッション
- 16:10 片付け、活動の振り返り

NPO法人横浜NGOネットワーク
長期実践型インターン生



横浜商科大学2年
阿部杏里さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

普段関わることのないNPO団体はどのような活動をしているのか興味を持ったからです。また、自分の知見や経験を広げたいと思い参加しました。長期で活動することで、様々な人と関わることができ、自分の視野を広げることができると思いました。

Q2. やりがいのあった活動は？

インターン中、SDGs勉強会と題して4回インターン生でイベントを企画しました。その第一回のイベントが特にやりがいを感じました。初めてのことで何もわからず、インターン生との仲も深まっていななで、協力してイベントを成し遂げた後は達成感を得られました。

Q3. 自分がインターンを経験して、変化したことは？

普段の生活で関わることのできない人や団体と関わることができることだと思います。大学生の間に社会を知ることができたり、自分の考えを広げることができたりしたことは貴重な体験だったと思います。

Q4. インターンの魅力とは？

普段の生活で関わることのできない人や団体と関わることができることだと思います。大学生の間に社会を知ることができたり、自分の考えを広げることができたりしたことは貴重な体験だったと思います。

Q5. 団体の方へメッセージ

約半年間大変お世話になりました。社会人で必要なスキルや、イベント運営の仕方等様々なことを学ぶことができ、大変充実したインターンになりました。貴重な体験をありがとうございました。

Q6. これからインターンを始める方へのメッセージ

考えながら活動すること、日々の変化を感じながら活動することが大事だと思います。せっかくの機会を中途半端に終わらせるのではなく、成長できる場として努力することで、インターン後に大きな達成感を得られると思います。頑張ってください。

NPO法人「横浜ジェントルタウン倶楽部」
短期体験型インターン生



神奈川大学2年
伊澤玲奈さん

Q1. NPOインターンシップ参加理由

コロナで大学で何をしたらいいかわからず、とりあえず何か始めてみたいと思ったから。NPOという企業以外の組織にも興味があり参加を決めました。

Q2. この団体を選んだ理由は？

身近に障害を抱えた人がいることが一番の理由。色んな人にとって「住みやすいまち」はどんな形か考えてみたいなと思い、障害者支援ではなく、まちづくりをメインにしているジェントルさんへ行くことに決めた。

Q3. インターンを通じて得たことは？

障害を持っている、持っていないということは本当に大した差がなく、関わるができるということを痛感した。社会から見た違いは実際に関わってみるとあまり大きくないことがもっと沢山の人が知って、行動をするべきだと感じた。

Q4. インターンの魅力とは？

広い世代や違う価値観を持った人と出会うことができるので、視野を広げることができる。さらに、今まで高校までと違い、自分で選んで活動をするので自分と向き合う時間になります。単純に楽しいと括ることはできませんが、とても実りある時間になる。

Q5. 団体の方へメッセージ

活動の中で沢山の人に会わせて頂きました。敷居の高くないアットホームな雰囲気、フラットに多世代の方、様々な障害をお持ちの方と話す機会を頂けて、学びになることばかりでした。ありがとうございました！

Q6. これからインターンを始める方へのメッセージ

何かを始めることは勇気がいるし、不安も大きいです。しかし、始めることで必ず得られるものがあると思います。イメージすることと実際に自分がやってみることの大きな違いを感じることは成長に繋がると思うので、具体的な目標を持って始めることもいいですが、今自分がどうしたいかわからない人にもおすすめしたいです。

2021年度 インターン生座談会

2022年3月、NPOインターンシッププログラムに参加した学生を交え、座談会をオンラインにて行いました。今回は、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター（※以下 すまセン）で短期インターンをした柴田さん（明治学院大学3年）と、WE21ジャパン（※以下 WE21）で長期インターンをした丸山さん（専修大学2年）に参加していただきました。（インタビュー：学生スタッフ 細野）

丸山さん



柴田さん



細野



細野：本日はご協力頂きありがとうございます！早速ですが、お二人はそれぞれどんな理由でインターン先を決めたのですか？

丸山：私は国際協力や海外支援活動に何の知識もないけど漠然と興味があって、お見合い会の時のプレゼンを聞いて、担当者の方のお話の仕方や人柄の良さに惹かれたこともあって、WE21ジャパンがいい！と割と即決でした(笑) 短期長期で迷いましたが、HPで情報を見させていたでいて、WE21の提携先のフィリピンの方についての記事を読んで、自分との生活の違いに衝撃を受けたりして、もっとじっくり知りたい、学びたいな～と感じ長期を選択しました。

柴田：私は大学で国際教育について学んでいたり、自分自身外国にルーツがあったり、高校時代から数年子どもたちに勉強を教える国際協力のボランティア経験もあったりしたので、その経験を活かしたいと思い国際協力に関わるインターンを選びました。その中でもすまセンを選んだ理由として、「家を探すこと」って自分にとってはそれほど大変なイメージはなかったのですが、外国人の方が日本の家を探すには言語や金銭面をはじめ「外国人」というだけで門前払いをされてしまう現状があったり…そういった家を探すうえで大変な状況があるということを知り、自分の中の課題意識が芽生えたことがきっかけです。

細野：ありがとうございます。丸山さんはお見合い会をきっかけに団体に運命を感じた、柴田さんは自身の元々抱いていた課題意識の中で団体とリンクする部分があった、という印象ですね！ それでは続いて、NPOインターンシップで印象に残っていることを教えてください。

柴田：一番印象に残っている活動として「あーすフェスタ」の企画内でYouTubeの動画制作を行ったことが挙げられます。「すぐマネできる世界の遊び」という企画で韓国の伝統遊びの体験動画の‘構想～撮影～編集’までを1人で行ったのですが私にとって初挑戦のことでした。

字幕を付ける時には、日本語を勉強し始めたばかりの外国人の方にも伝わるように、いつも自分が使っている言葉、例えば「使用する」→「使う」、「購入する」→「買う」といったように「優しい日本語」に変換することを意識することは少し大変に感じましたが、勉強になりました。

細野：ただつくるのではなく「誰にどう伝わるかな」ということを意識すると、気を付ける部分も増えてくることを学ばれたんですね。丸山さんはいかがですか？

丸山：頑張ったな～大変だったな～ということはイベントの企画運営でした。資料はどのくらい作らなきゃいけない？という風に集客する？あと何日ある？みたいな感じで考えなきゃいけないことが本当に多くて大学の授業もある中でしたので、結構追われてました(笑) イベントには若年層に是非参加してほしいという思いがあったので、勇気を出して自分の大学の窓口にメールしてみたりもしました。これまでの自分じゃ考えられない行動力も身につけることが出来たと感じています。また、WE21では「顔の見える関係」を大切にされていて、自分もその一員になったなど実感した出来事があった！ 一日の活動日が終わった後スタッフの方と雑談をしていた時に好きなキャラクターの話をしていてそのキャラクターのものを今度プレゼントするねとサラッと話していたことを覚えてくださって、インターンが終了したあと、本当に自宅に郵送で手紙も一緒に届けてくださったんです！心遣いがとても嬉しかったです。

細野：長期だからこそ挑戦出来る分、苦労や嬉しいことも増えてくるんですね、充実したインターン活動であったということが伝わってきました。 それでは、続いてインターン活動を通して学んだことや得たことについてお聞かせください。

柴田：私は、「出会いを大切に」「人と人のつながりが支援を生む」ということの重要性を学びました。すまセンでは、「家を探すこと」に関することだけでなく、「コロナワクチンの予約方法」であったり、「補助金の申請方法」など家以外に関する、様々な身近な生活への悩みに対して真摯に相談に乗っていらっしゃるスタッフの方の姿を見ました。そして単に話を聞くだけではなく、目の前のひとりひとりにしっかりと向き合うことでこの場所が外国人の方にとっての「地域の居場所」になっていて、さまざまな支援を生んでいるんだということを学びました。

細野：対面でのインターンにより間近でスタッフとして活動をされている方の活動の様子に触れると、より多くのことを学ぶことができますよね。それを実感されたみたいで良かったです！

丸山：私はフェアトレード事業、バーチャルスタディーツアーなど様々な体験をさせていただいたのですが、その経験の中でフィリピンの自分と同じくらいの女の子が学校に行くための学費を稼ぐために両親の仕事を手伝うことが生活の軸になっているということを知りました。自分との生活とのギャップを感じると同時に、私がお子に何かできることはないか模索していきたいと思うきっかけになりました。また、先程お話ししたように、活動の中で大学の授業と被って忙しくなってしまう時期があって上手くいかずにネガティブになることもあったりしましたが、問題点をそのままにするのではなく自分がどうすれば上手くいくようになるか、試行錯誤を繰り返しながら自分なりのやり方を見つけることや、課題の捉え方を意識することの大切さについても学ぶことができました。

細野：もともと詳しい知識がなかったとおっしゃっていた丸山さんですが活動の中で現地の方と触れる機会を得て、考え方や意識が芽生えてきたんですね。後半の話は今後また何か挑戦するときに役に立ちそうなスキルです!! それでは最後に、インターン活動を終えて、今後この経験をどのように活かしたいか教えてください。

柴田：私はこのNPOインターンに参加するまでNPOとは?実際にどういう活動をしているのか?自分と関わりは見つけられるのか?といったようなことを最初は思っていました。(笑)数か月間ではありましたがスタッフの一員として参加させて頂いたことで、特にあーすフェスタでは、「横浜地域ではこんなに沢山のNPOの方が参加し外国人が日本で暮らしやすくするために、苦手なものを助け合いながら、同じ地域で暮らしていくために活動をしているんだな~」ということ始めて知りました。なので今自分が住んでいる地域にはどんなNPOがあってどんな人などのような思いでどのように支援を行っているのかを知って、今後は自ら積極的に活動に参加したいです。団体の設立したきっかけを探ると、実は同じような支援や思いを持って活動している団体は沢山あったりして、その団体同士の繋がりがなんか考えてみたいな~と思っていたりします。

丸山：自分が体験した「誰かのために支援を行う活動」は意外と身近に沢山あるよ、ということをもっと多くの方に伝えていきたいです。WEショップは神奈川県などの市にもあって、そういうところで買い物をするだけで支援に繋がるし、誰かを支援してみたいと思ってもなかなか一歩踏み出せないということでも、調べたら意外とすぐ見つかったりします。自分が体験して実感したことを身近な人に共有することで自分の思いも広げていきたいと思っています。また、インターン先の方に「イベントいつでもきて~」とおっしゃって頂いたので積極的に今後も活動には参加したいと思っています!(笑)

細野：お二人とも素敵な経験をされたことや今後への熱い思いが伝わってきました!次は是非インターン卒業生として今後インターンを経験する後輩を支える立場にもなってください(笑)

本日は沢山お話し頂き誠に有難うございました!

あなたにとって、NPOインターンシップとは?



在日外国人の方が感じている悩みや課題について、これまでは日本人としての視点からしか考えたことが無かったのですが、活動を通じて実際に当事者の方のお話を数多く伺ったことで、これまでの自分の認識と当事者が抱える現状との間に生じているギャップに気付くことができました。このような学びができたのは、団体の一員として実際に現場で活動することができる本インターンシップのお陰だと思います。

「”当事者目線”で学べる時間」

かながわ外国人すまサポートセンター 短期インターン生
明治学院大学3年 柴田愛美さん



フェアトレードについてのワークショップやWE21ジャパン地域NPOが運営するチャリティーショップへの研修。2つのイベントの企画から運営・広報活動などさまざまな角度から経験し、自分の興味のある分野について学ぶことができました。NPOインターンシップならではの幅広い貴重な経験をたくさんさせていただきました。

「幅広い経験」

WE21ジャパン 長期インターン生
専修大学2年 丸山穂乃実さん

受け入れNPO・大学からの声

NGOネットワーク

小俣典之 さん

当団体は、「SDGsよこはまCITY」(以下、CITY)という国際協力・多文化共生イベントの事務局を担っています。6名の長期インターンたちは、このCITYを「素材」に社会課題解決のアイデアを出し合い、様々な企画を創り出しました。そして、コロナ禍にありながら彼らが編み出した素晴らしいチームワークを駆動力にステークホルダーとのコミュニケーション、運営管理やSNS広報などを主体的に行い、CITYの2回のイベントを成功に導きました。今回の活動経験から自ら社会に働きかけることの醍醐味を感じ、次のアクションへの小さなヒントを得ることができたのであれば、これ以上の喜びはありません。彼らの一層の飛躍を祈りつつ、SDGs推進を企む2023年度のインターンたちと一緒に今年の「続編」を創っていきたいと思います。

2021年度もコロナ禍で、学生の皆さんは対面授業がなくなったり様々な活動が制限され、先の見通しがなかなかつかない中大変苦勞をされているかと思います。障害のある人たちの中には、ずっとそういう制約のある暮らしをしているかたがいらっしゃる。私たちの活動の原動力は、障がいのある人たちが自分らしく暮らせる地域にしたいというものです。このNPOインターンシップの取組みは、私たちが暮らす地域をもっと豊かにしたいという様々な団体の活動を皆さんに体験していただける貴重な機会だと思います。私たちにとっても、自分たちの活動を振返るきっかけになっており参加できていることに本当に感謝しています。これからも一緒に取り組んでいきたいと思っています。

NPO法人地域生活センター

赤川 真 さん

大倉山おへそ
小松 由希子 さん

当団体は大倉山エルム通り商店会と協働し、商店街の活性化と地域交流を目指しております。地域のイベント運営もありますが、『日常の延長にある場』であることを大切にしています。立地もあり、「ちょっと寄ってみたよ」とふらりと立ち寄られる地域の方が多いです。おしゃべりをしながら、地域の情報を互いにやりとりしたり、偶然居合わせた方同士がつながったり。時には、必要な支援へおつなぎすることもあります。家庭や学校、職場とも違う場所だからこそ生まれる“雑談”と“ななめの関係”。コロナ禍となり、その大切さをより実感しました。活動を通して様々な方と出会い、皆さんの“まち”の風景を見つけてもらえたらと思います。

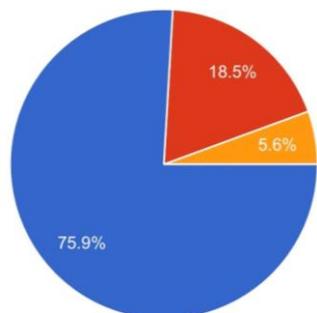
健康学部では2019年度よりNPOインターンシップに関わり、今年は短期2名、長期1名がお世話になりました。将来起業を考えている学生、これまで自主的に地域に関わってこなかった学生、卒業後は医療ソーシャルワーカーになる学生など、多様な学生が参加しています。授業では扱っていないテーマや内容に、飛び込む学生がいることはとても嬉しい状況です。学生たちは始めは恐る恐るだとしても、だんだんと日ごろ感じていた社会や将来に関する疑問や思いから、考えたり挑戦したりしている様子が見られています。NPO活動への関わりが自分と社会の関係性を考えるきっかけになっていると感じています。この活動をご準備くださり日々学生のご支援・ご指導にあたってくださっているNPOや事務局のみなさまにこの場をかりてお礼申し上げます。

東海大学 健康学部

市川 享子 さん

2021年度インターン生のアンケートより

参加者の満足度アンケート



- 満足
- どちらかと言えば満足
- どちらかと言えない
- どちらかと言えば不満
- 不満

・普段の大学生活では経験できない貴重な時間を過ごすことができたから。

・インターンシップという新しい活動の場を通して良い刺激を得ることができたから。

・インターン受け入れ先の方にとっても良くしていただいて、学びの幅が広がったと感じたため。

・自分たちの考えた企画について沢山アドバイスを頂いたり、様々な経験をさせて頂いたから。

感想ランキング(複数回答可)

- 1位 いままでやったことのない経験ができた (81.5%)
- 2位 NPOや民間非営利組織への関心が高まった (63%)
- 3位 大学生活(特に夏休み)を有意義に過ごすことができた (51.9%)

● インターンを通じて、自分が単に大学生活を送っているだけでは出会えなかった人に会えました。その出会いを通じて世の中にはこんな人生を送っている方もいるのかという発見にもなりました。自分が進みたい分野の社会ではこんな人々がいる事、当事者理解に繋がり本当に貴重な体験をする事ができたと思います。行くたびにいろんなお話を聞くことができ毎回楽しみに参加する事ができ本当に受け入れ先のNPOさんには感謝しています。

● 以前は、NPOに参加することは非常にハードルが高いと考えていたが、実際にNPOの活動に参加すると、地域の方や大学生など様々な人たちが活動に関わっているということが分かり、インターンシップ後は、活躍したいという気持ちがあれば、NPOに誰でも参加することができ、ハードルは高くないという考えに変わった。

● 以前は”非営利組織”という言葉からボランティア団体との区別があまりついていなかった。しかしインターンシップでの経験を通じて、ボランティア団体よりも行政との距離が近く、行政と市民との架け橋となっているように感じた。

● NPO法人の方々はそのようなやりがいを持って活動をしているのか知りたかったというのが分かって本当に良かったです。イベントを企画することがどれだけ大変なのか体験させていただいて、また、成功する楽しさも教えていただきました。本当にこのインターンは私にとってよい経験をさせていただきました。参加して良かったと心から思っております。

● 普段の生活では知り得なかった事柄を多く知ることができました。また大学や学部などが異なる人とのつながりや、自分とは違う価値観を持つ人と知り合えることで、今までの行動を振り返り見つめ直す良い機会になったと思います。このプログラムに参加することによって、自分の欠点を改めて実感し、改善していかなくてはと感じました。



発行月 2022年3月
発行元 NPO法人アクションポート横浜
編集 2021年度学生スタッフ 細野瑞希
URL <http://actionport-yokohama.org>



アクションポート
YOKOHAMA

アクションポート横浜

検索